

水コラム no.30 : 「雨庭」～雨に親しみ、うるおいのある暮らし

先進的な雨庭の事例の視察ということで、市の環境部の職員で福岡に行ってきました。自宅に雨庭を取り入れた「あめにわ憩いセンター」の紹介をします。

「雨庭」とは

アスファルトや屋根などに降った雨水を一時的に貯留し、ゆっくり浸透させるための植栽空間（庭）のことで、生態系保全、都市景観の向上、ヒートアイランド抑制等、多面的な価値を持つものとされます。

「あめにわ憩いセンター」

福岡市の樋井川沿いに位置する約50年の戸建て住宅です。一階部分をコミュニティスペースとして開放し、定期的に茶会や座談会を開催しています。また、あまみずや緑と上手に付き合う方法を紹介するため、様々な雨水貯留や利用、また浸透方法を実践しています。例えば、屋根から集水した雨水を樽（0.5t）と庭にあるデッキの下に設置されているボックス12個（計1.8t。ホームセンターで売られている収納ボックスを改造したもの）に流出させ貯留しています。オーバーフロー分は庭に浸透させています。その他にもたくさんの雨水の治水・利水システムがあり、まるでからくり屋敷の様でした。



貯まった水を防火や庭の散水に利用したり、太陽熱で温めて足湯に利用してたりしていました。



水コラム no.31 : 何に、どのくらいの水を使う？「水カルテ」

第6回講座で、橋本先生からは防災用に水を備蓄する場合の量についてクイズがありました。一方で、普段の生活で使っている水の量は、1日1人あたり339ℓ。（水の学校ニュースレターvol15より。最新のデータは「統計で見る武蔵野市」用途別使用水量の推移をご覧ください。）これだけの水を今まで普段どのように使ってきたか、また、これからの水の使い方は今まで通りで良いのか、考えるきっかけとして、第2回講座では浄水場見学とワークショップの後、「あなたの水カルテ」を宿題として配布しました。

暮らしの中の水の使い道と平均の使用水量

- 飲み水・・・約2ℓ
- 歯磨き・洗面・・・約17ℓ
- トイレ・・・約50ℓ
- 料理・食器洗い・・・約60ℓ
- お風呂・・・約200ℓ
- シャワー・・・5分間で約60ℓ
- 洗濯・・・1回約70ℓ
- 草木の水遣り・洗車（屋外での使用）



草木の水遣りに、人が飲める水質の水道水を使うのはもったいない！という意見もありました。雨水を溜めて使っている人もいます。

水の使い方を振り返ってみましょう

- どんな水を使いますか？
 - 使い方についてところがけることはありますか？
 - 実際使っている水道水の量はどのくらいでしょうか。おうちで過ごす日を選んで、計算してみましょう！
- 【参考】水道蛇口：毎分12ℓ(90度開栓時のおおよその量)

最近は節水機器が多く普及しています。たとえば、水洗トイレは、最新機種では1回約4ℓの水で流せるものがありますが、20年以上前の機種では1回流すのに約13ℓの水が使われています。



12/7（金）

女子大通り幹線管渠更生工事見学



レポーター：水の学校サポーター 千原さん

今回はじめて、私どもサポーター5名は吉祥寺ふれあい公園に集合して、女子大通りの幹線更生工事を見学させて頂きました。「水の学校」での学びが深まるにつれて、下水道の大切さがよく理解できたからです。

今回の工事は、劣化・腐食の進んだ女子大幹線（管径3310×2930mm）を製管工法（SPR工法）によってリニューアルし、長寿命化するものです。6年におよぶ一連の工事は、本工事をもって完了となります。道幅の割には交通量の激しい女子大通りの工事を、コンパクトに昼間にやれるものと感心致しました。

下水道は、私たちの暮らしを支えているライフラインです。“目に見えない上手いって当たり前”の設備です。常に地中の設備に目を光らせ、地道な保守・点検、損耗部分の修復が欠かせません。関係する皆さまの御尽力を多とします。

今後、下水道工事に遭遇したら、「ご苦労さまです、ご安全に！」と声かけを実行致します。